



こぐまサークルニュースレター
2019年 **3月号** 弥生
川島町中山 1733-2 ☎ 297-3000
HP <http://tonegawayoutien.jp/>

こぐまサークルでの体験



とねがわ幼稚園長 笛木 哲
こぐまサークルの1年間が終わろうとしています。多くのお子さんとお母さんにご利用頂きました。心から感謝致します。

こぐまサークル担当者の山根教諭は、「どういう遊びを提供すると子どもは自己を開放してくれるだろう?」「集団の中での遊びを体験する中で、同年代の子、親とは別の大人とかかわれるようにしたい(親同士の交流も含めて)」「家庭では経験できない遊びで、子ども自身の伸びる力を引き出そう」と、毎回様々な教材を提案してくれました。私は幼児教育の専門家ではありませんが、山根の作ったプログラムは素晴らしいと思います。何より、大人が経験して面白いのです。子どもと一緒に体験するともっと楽しく幸せになります。そして、他の親子と笑顔で交流できます。

さて、お母様方にとって、こぐまサークルは居心地の良い空間だったでしょうか。皆様の大切なお子さんが初めて体験する集団生活への不安を軽くし、家庭生活から社会生活への門戸を柔らかに開いたでしょうか。私たちは、今後も幼児教育の導入部として、親子で幸せな時間を過ごせる『こぐまサークル』を大切にしていきたいと思います。たくさんの笑顔をありがとうございました。

愛するということ

絵本「たいせつな きみ」(マックス・ルケード著)を読んで

木彫りのこびと達の話です。絵の具がきれいに塗られ、かわいくて才能があるこびとは、仲間のこびとからいつでも金色シールがもらえます。ところが、絵の具がはげ、できないことばかりのこびとは、灰色のダメ印シールが貼られてしまいます。パンチネロは、そんなこびとの一人でした。金色シールをつけたこびとがうらやましく、自分の身を嘆いて落ち込んでしまうばかりです。ところが、作り主のエリは、パンチネロのことを「いとしい子」「ほかのこびとがおまえのことをなんと
思おうと、かまいはしないさ。みんながどう思うかなんてたいしたこと
じゃないんだ。問題はね、この私がどう思っているかということだよ。
そして私は、おまえのことをとても大切だと思っている。」と彼がどんなに大切な存在か、小さな木でできた肩にそっと手をおいて、優しく悟らせようとします。

パンチネロをわが子、エリを親と考えるなら、「あなたほど大切な存在はいない」と伝える親のもとで育てられる子どもは、どれほど幸せで、どんなに強く自信をもつことでしょうか。「世界にたった一人しかいない『あなた (皆さんのお子さん)』は、何よりも大切だよ。」と、ぜひ口に出してお子さんに伝えてください。世間に遠慮する必要はありません。成長するにしたがい、誰かと比べられ、できないことまで評価され、自分を見失ってしまうことが多くなります。そうなるからでは、遅いのです。

パンチネロは、人から愛されていること、自分がどんなに大切な存在であるかを知ります。すると、ダメ印がポロンと地面に落ちます。

